

2020/03/08

「不安の解決」

「また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」(ルカ 12:11-12)

私たちが何かを心配するのは、不安があるからです。神は、私たちに、どのように不安に対処するように教えているのでしょうか。不安に対して正しく対処するならば、神はその不安を根本から解決して下さいます。

人が不安を抱くようになった起源を学び、どのように不安に対処すれば良いかを知りましょう。

■不安の誕生

人とは「何かを考え、認識する精神」です。「意識」「精神」は、人の中に人間の力ではどうすることもできない普遍的な運動があって、そこに何らかの刺激があることによって生まれます。

たとえば、もし、目の前に食べ物があっても、そもそも「おなかですく」という自分ではどうすることもできない運動がなければ、「これは食べものだ」という意識が生じることはありません。そして、人に意識を生じさせる、「人間の力ではどうすることもできない運動」とは「神」であるというのが、哲学の共通した認識です。一般的には「魂」とか「良心の声」などと言われます。ここに体を通して情報が持ち込まれ、それが刺激となって意識・精神が生じるのです。

もう少し簡単に説明すると、人は神のいのちによって造られているため、神は「あなたは神と同じく永遠で自由な存在だ」という情報を流します。これが神の愛です。人が「生きよう」という思いを持ち、死を恐れるのは、すべての人が永遠を知っていることを表しています。ところが体を通して入ってくる情報は、この世のものはすべて失われるか滅び、「〇〇するには××しなければならない」と拘束する情報です。

その結果、魂の運動と体がもたらす刺激が相容れず、「不安」という意識が生じるのです。

「神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。」(創世記 2:7)

地上の情報を集めるために、からだは地上のもので造られ、神のいのちが吹き込まれて人は生きものとなりました。この「神のいのちが吹き込まれる」とは、人に神のいのちが貸し出されたというイメージです。「生きものとなった」とは、原文では「生きる魂になった」と書かれていて、精神が活動を開始したということです。人間は体だけでは存在できず、神の

いのちで支えられていることによって精神が生まれ、人として存在しているのです。ですから、「私たちは神の御手の中で生かされている」と、聖書は一貫して教えています。

人間だけが、神のいのちを分け与えられ、祈ることができ、神とコミュニケーションをとることができます。最初、アダムとエバのからだは、永遠と自由の情報しか収集していなかったもので、神からの情報とすべて合致し、不安はなく、非常な心地よさを感じていました。このときの二人の様子を、聖書は次のように表しています。

「人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。」

(創世記 2:25)

自分たちを否定する情報は何もなく、あるのは自由と永遠という神が与えてくれる情報だけです。ところが、悪魔が蛇を使って二人を欺き、世界が一変して朽ちる世界になると、二人の様子は次のように変わりました。

「このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」(創世記 3:7)

これが不安の現れです。今までは神から教えられていたことがすべて確認できたのに、愛も永遠もこの地上では確認できなくなってしまいました。これが不安の起源です。この不安を払拭するために、人は着飾り、何かにしがみついて生きているのです。

■不安の解決方法

不安の起源は、この地上で神の愛を確認できなくなったことですから、その解決は、神の愛を知ることです。ところが、この死のからだでは神の愛を収集することができないのです。

そこで、イエスという神ご自身が、私たちと同じ死のからだをもってこの世に来られ、神が教えておられる「永遠」と「自由」が本当にあることを教えてくださいました。自由の象徴は、「罪の赦し」です。イエス・キリストは、私たちを自分の罪に気づかせ、その罪が無条件で赦されるという愛を教え、私たちを拘束する王として君臨している罪から、私たちを解放してくださったのです。

イエス様はこの地上に来て、十字架にかかって死なれ、3日目によみがえって見せてくださいました。こうして、「私が十字架にかかってよみがえったように、私を信じる者はよみがえって永遠に生きる」つまり、もう一度「生きものになる」と教えてくださいました。「信仰」とは、この神の愛を受け取ることです。神は、信仰によって、私たちの罪を赦して自由にし、私たちを永遠に生かしてくださるのです。この神の愛を信じるのが、不安の解決の方法です。ところが、そのことを知らないために、多くの人が不安に対して間違った対応をしています。

《間違った解決方法》1.人間関係による解決

最も多い間違いは、まわりからよく思われる自分を目指すことで不安を解決しようとする方法です。ところが、そのやり方では、逆に人を恐れることになってしまいます。

「そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。たとい、人の子をそしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。」(ルカ 12:4-10)

「人を恐れるのではなく、神を恐れよ」とは、「神に心を向けなさい」「神を信頼しなさい」という意味です。神は、どんな場合でもあなたと一緒におられます。それなのに、もし人前で、神を知らないと言うのであれば、それは神を信頼していないということです。キリストを恥じることなく、キリストを信じていることを証ししましょう。「聖霊を汚す者は赦されない」とありますが、「聖霊を汚す」とは、「イエス・キリストを拒む」ということです。キリストを拒み続ける人は、救いを受け取ることができません。

《間違った解決方法》2.富による解決

「富」で解決するとは、ものを手に入れて安心しようとする生き方です。マスクを買い占めたり、トイレットペーパーを買い占めたりするのも、これにあたります。

「群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話してください」と言った。すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしをあなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』」しかし神は彼に言われた。『愚か者。

おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』(ルカ 12:13-20)

どんなにたくさんの富を手に入れても、命を失ったら何の役にも立ちません。私たちの不安を解決するのは、富ではないのです。

ところで、「おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる」という原文は、「神が霊の返却を要求する」という表現になっています。しかも、これは“3人称複数形”で、「三位一体の神がおまえのたましいの返却を要求する」という意味なのです。「人間は神のいのちを貸し出されて生きものになった」(創世記 2:7)ということは、肉体が滅びると魂は神に返却されるということであり、私たちが永遠に生きるためには、朽ちないからだが必要なのです。この朽ちないからだのことを「永遠のいのち」と呼びます。永遠のいのちを持っていないと、魂は貸出場所を失って返却されなくては行けないのです。

つまり、もっとも大切なことは、永遠のいのちを持つことです。そして、「信じているあなたがたは、すでに永遠のいのちを持っている」と、イエス様は繰り返し語っておられます。イエス・キリストを信じる人の中には、すでに永遠のいのちがあって、魂が返却されることはありませんから、もう死ぬことはありません。肉体の死と同時に、霊のからだに脱皮して、そのまま生きていくことになります。

あなたはもう「永遠」と「自由」を手にしていきますから、何も心配する必要はありません。もし不安を感じるなら、それは、永遠のいのちを持っているにもかかわらず、それを信じる信仰がまだ育っていないということです。神への信頼を育てることで、不安は解消されます。

■不安を解決する方法

1. 自分の罪に気づく

「それから弟子たちに言われた。「だから、わたしはあなたがたに言います。いのちのことで何を食べようかと心配したり、からだのことで何を着ようかと心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物よりたいせつであり、からだは着物よりたいせつだからです。鳥のことを考えてみなさい。蒔きもせず、刈り入れもせず、納屋も倉もありません。けれども、神が彼らを養っていただきます。あなたがたは、鳥よりも、はるかにすぐれたものです。あなたがたのうちのだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。こんな小さなことさえできないで、なぜほかのことまで心配するのですか。ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして育つのか。紡ぎもせず、織りもしないのです。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。しかし、きょうは野にあって、あすは炉に投げ込まれる草をさえ、神はこのように装ってくださるのです。ましてあなたがたには、どんなによくしてくださることでしょう。ああ、信仰の薄い人たち。何を食べたらよいか、何を飲んだらよいか、と捜し求めることをやめ、気をもむことをやめなさい。

これらはみな、この世の異邦人たちが切に求めているものです。しかし、あなたがたの父は、それがあなたがたにも必要であることを知っておられます。何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、これらの物は、それに加えて与えられます。」(ルカ 12:22-31)

「神の国を求める」「神の言葉を求める」とは、「神が解決するからそこに目を向けなさい。」
「神に愛されている自分を知りなさい。」ということです。そのための第一歩は、「多くの罪に気づく」ということです。

「だから、わたしは『この女の多くの罪は赦されている』と言います。それは彼女がよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。」そして女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。すると、いっしょに食卓にいた人たちは、心の中でこう言い始めた。「罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。」しかし、イエスは女に言われた。「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行きなさい。」(ルカ 7:47-50)

多くの罪に気づいて、多くの愛を受け取るには、信仰しかありません。ですから、不安の解決というのは、自分と向き合って、自分の罪に気づくしかないのです。「罪が赦された」とは「自由の身になった」ということです。その体験が平安を生みます。

2. 恐れと戦う

「イエスがまだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人が来て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は直ります。」(ルカ 8:49-50)

不安を解決する方法は、神の愛に気づいて「永遠」と「自由」を手にすることです。具体的には、困難な出来事に出会ったとき、神が解決してくれると、恐れずに信じることです。

恐れは、「不安+困難な出来事」によって生じます。私たちは皆不安を抱えていますが、漠然とした不安に対処することはできないため、困難な出来事に不安を投影して、困難を解決することで不安を解決しようとしています。この時、困難な出来事は恐れに変わります。この恐れと、信仰によって戦うことが不安を処理する方法の一つになります。

3. 感謝する

病気や仕事など、何かに行き詰ると、普通は感謝などできません。しかし、行き詰るということは、裏を返せば「神に頼るしかない」ということです。

不安は、神が解決するしかありません。ですから、神にしか頼れないという状況は、感謝

しかありません。私たちはなかなかこのことに気がつかないものです。

「イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話されました。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものだから。いま飢えている者は幸いです。やがてあなたがたは満ち足りるから。いま泣く者は幸いです。やがてあなたがたは笑うから。人の子のため、人々があなたがたを憎むとき、あなたがたを除名し、辱め、あなたがたの名をあしざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。その日には喜びなさい、おどり上がって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。彼らの父祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。しかし、あなたがた富む者は哀れです。慰めをすでに受けているから。いま食べ飽きているあなたがたは哀れです。やがて飢えるようになるから。いま笑うあなたがたは哀れです。やがて悲しみ泣くようになるから。みなの人々がほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの父祖たちも、にせ預言者たちに同じことをしたのです。」(ルカ 6:20-26)

人間の力や人との関わりや富で解決できそうなとき、私たちはなかなか神を頼りません。ですから、豊かな人間関係や富は、むしろ誘惑でしかありません。そのようなものを持たず、この世で嘆き悲しむことしかできない人たちは、神からの慰めを受け取ることができます。神からの平安を受けとることができるのですから、感謝しようとイエス様は教えてくださいました。

人は調子が良いときには感謝して、調子が悪いときには落ち込むものだと思いますが、調子が悪いときこそ感謝しましょう。すると、神があなたを本当に助けてくださり、あなたは神に愛されている自分を知ることでしょう。こうして私たちは不安を排除していくことができるようになるのです。

不安は、神から愛されている自分を知って初めて解決できます。その中で私たちは、自分が永遠のいのちを持っていることを信じるできるようになり、自分が死んでも復活することを信じられるようになり、このようにして、イエス様の十字架の愛によって不安は解消されていくのです。